



2022年4月コロナ禍の言語生活： 教員養成系大学初年次学生のコミュニケーションに 関する意識

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-09-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐野, 比呂己 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00010741

2022年4月コロナ禍の言語生活

—教員養成系大学初年次学生のコミュニケーションに関する意識—

佐野 比呂己

キーワード コロナ禍 マスク越し リモート 対面 コミュニケーション 語彙

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちを取り巻く環境は大きく変化した。それとともない、コミュニケーションの様相も様変わりしている。リモートでのコミュニケーションの機会が多くなり、対面でのコミュニケーションもマスク越しでのコミュニケーションを強いられる状況に至っている。

本稿では、コロナ禍でのコミュニケーションに関する意識を調査し、考察しようとするものである。これらを検討することを通して、授業、会議、生活等の現状を明らかにし、その留意点、可能性、限界を論じようとするものである。

標題を「2022年におけるコロナ禍の言語生活」とした。コロナ禍の状況もその時期で変化が生じている。新型コロナウイルス感染症が我々の生活に大きな影響を与えて2年が経過した段階であることを確認する。

『デジタル大辞泉』（小学館 ジャパンナレッジ）には、「コロナ禍」が立項されている。

新型コロナウイルス感染症の流行によって引き起こされる、さまざまな災い。感染症自体だけでなく、それを抑止するための経済活動の自粛や停滞、人々の疑心暗鬼なども、広く含む。

『日本大百科全書』（小学館 ジャパンナレッジ）には、「新型コロナウイルス感染症」が立項されている。2021年（令和3年）12月14日、和田耕治の記述による。

COVID-19

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2（サーズコブツー））がヒトに感染することによって発症する感染症。2019年（令和1）に初めて発生が確認された新興感染症であり、当初、日本においては感染症法上の「指定感染症」に指定された。指定感染症に指定された感染症は、公衆衛生に応じた措置（強制的な入院措置や休業措置など）が可能になるほか、入院にかかる費用が公費負担となるなどの規定がある。なおその後2021年2月13日より、法的位置づけは「新型インフルエンザ等感染症」に変更された。

2020年（令和2）の新型コロナウイルス拡大に際して先進諸国が早々と緊急事態宣言や徹底的なロックダウンをはじめとする数多くの対策を講じた。一方で、日本政府は2月1日（火）に新型コロナウイルスによる感染症を、感染症法に基づく指定感染症に指定し、ダイヤモンド・プリンセス号で大量の罹患者が初期に出るなどした。2月27日、当時の安倍晋三首相の突然の要請で

始まった全国一斉休校が始まり、休校期間は3月から最長で約3カ月に及んだ。一斉休校は3月から順次始まり、学校だけでなく、家庭でも仕事の調整などの対応に追われた。4月7日に7都府県で緊急事態宣言が発令され、その後、対象地域が全国に拡大し、休校期間を5月末まで延長する動きが広がった。5月には専門家会議の提言を踏まえ、3密の回避や人との接触の8割減を目標とした新しい生活様式が提言され、社会・経済機能への影響を最小限にしながら、感染拡大防止の効果を最大限にする日本モデルを安倍首相が提唱した。緊急事態宣言は約1カ月半後の5月25日に解除され、段階的に社会経済活動が再開された。

コロナ禍でのコミュニケーションはこれまでと大きく変容した。マスク越しのコミュニケーション、リモートでのコミュニケーションがほとんどとなった。

本稿では、2022年（令和4）4月時点での「教員養成系大学初年次学生のコミュニケーションに関する意識」について、調査し、若干の考察を加えるものである。

調査にあたって、「令和2年度「国語に関する世論調査」の結果について」（文化庁国語課 2021年（令和3）調査）を参考にした。

調査は、2022年（令和4）4月18日にGoogleフォームを用い行った。【資料1】対象は「国語表現」受講者である。回答は、1年次46名、2年次7名、3年次は3名の計56名である。

対象学生の大部分が1年次学生である。高等学校において一人一台端末の本格的に始まったのがこの4月からであり、3月まで高校生であったことを考えると学校に置いてリモートでのコミュニケーションについては経験は多くないものと推測する。

2 マスク越しでのコミュニケーション意識

「自分も相手もマスクを着けている状態で会話をするとき、マスクを着けていないときと比べて話し方や態度などが変わることがあると思いますか。それとも、ないと思いますか。」という質問に対する回答は以下の通りである。

「変わることがあると思う」が54人（96.4%）、「変わることがないと思う」が2人（3.6%）であった。大部分の学生がコミュニケーションに変化があることを意識している。

2-1 マスク越しでのコミュニケーション意識の変化

それでは、具体的にどのようにコミュニケーション意識の変化があるのだろうか。「どのような点で変わることがあると思いますか。この中からいくつでも選んで下さい。」という質問に対する回答は以下の通りである。

はっきりとした発音で話すようになる	36人（64.3%）
声の大きさに気を付けるようになる	34人（60.7%）
話す速さに気をつけるようにする	9人（16.1%）
表情で伝えにくい分を言葉でおぎなうようになる	19人（33.9%）
相手の表情や反応に気を付けるようになる	30人（53.6%）
身ぶり手ぶりを多く使うようになる	28人（50.0%）
意味が通じやすいと思う言葉を使うようになる	10人（17.9%）

きちんと伝わっているか相手に確認するようになる	21人 (37.5%)
相手の話を最後まで聞くようになる	11人 (19.6%)
自分が話すタイミングに気をつけるようになる	14人 (25.0%)
相手との距離に気を付けるようになる	14人 (25.0%)

「はっきりとした発音で話すようになる」「声の大きさに気を付けるようになる」が6割を超える。声の明瞭さ、大きさを意識する数値が高い。

「相手の表情や反応に気をつけるようになる」「身ぶり手ぶりを多く使うようになる」を意識する数値は約半数である。相手意識を持つこと、加えて声の明瞭さ、大きさに加えて、「身ぶり手ぶりを多く使うようになる」ことでコミュニケーションを円滑に意識しようという意識がうかがえる。

「話す速さに気をつけるようにする」「意味が通じやすいと思う言葉を使うようになる」「相手の話を最後まで聞くようになる」「自分が話すタイミングに気をつけるようになる」は3割以下であり数値が低い。

声の明瞭さ、大きさは意識するが、「話す速さ」についてはあまり意識がないようである。マスク越しのコミュニケーションにおいては、声がかもめることもあり、速さも重要な要素となる。

「相手の話を最後まで聞くようになる」「自分が話すタイミングに気をつけるようになる」といった相手の話を聞くという姿勢については意識が低い。一方で「きちんと伝わっているか相手に確認するようになる」が37.5%あり、「相手の表情や反応に気をつけるようになる」の高い数値を含め、自分の話が伝わっているか否かについては意識が高いようである。

「意味が通じやすいと思う言葉を使うようになる」の数値が低く、言葉によってコミュニケーションを円滑にしようという意識が低い。これもコミュニケーションを円滑にするためには重要な要素である。

「相手との距離に気を付けるようになる」というソーシャルディスタンスの意識も低いようである。コミュニケーションが活発になった際には、距離を意識しなくなるのであろう。

ここにマスク越しのコミュニケーションの課題が確認できる。

2-2 マスク越しでのコミュニケーションに思うこと

「自分も相手もマスクを着けて状態での会話について、あなたの思うことを述べなさい。」と自由に記述してもらった。(ゴシック体については佐野が施した) これらの記述についてはテキストマイニングを行い、結果については【資料2】に示した。

表情が見えない状態での会話をするのは話していききちんと伝わっているのか不安になる。加えてマスクを着けていない時よりも聞き直されることが多くなったと思うので、はっきりと発音するように心がけている。

- ・目で気持ちを伝えるようにする

1 株式会社ユーザーローカル「AIテキストマイニング」を利用した。 <https://textmining.userlocal.jp/>

- ・自分の感情が伝わりにくいので、もどかしい。
- ・相手の表情を読み取ることが困難なため、どんな気持ちで言っているのか理解するのが難しい。
- ・表情が分かりにくいので、相手のことをよく見て話すようになったと思う。
- ・人間はマスクなどで口元が見えないだけで、相手が笑っているか、笑っていないかがわからなくなって不安になると思う。そのため、会話しているときは、相槌などの動作といった、相手に伝わるようなはっきりとした反応が必要だと思う。
- ・表情がわかりにくいため、不愛想に思われたり、冷たいと思われたり、または相手に対して思ってしまうことがあると思う。不安になりやすい。
- ・顔全体が見えないため、相手の本心がより読み取りづらくなっている。
- ・自分も相手もマスクをつけている状態だと声がかくぐもってしまって相手に意図が伝わりにくかったり、相手の表情が見えないのでどういう反応しているのかわからなくなってしまうことが多くあります。マスクありの方が声を気持ち大きくしたり、感情が伝わりやすいように少し大きめに表情に表したり、声色を変えたりしている気がします。
- ・マスクを着けていることで声がかもったり小さくなったりして聞こえにくい。だから自分にはっきりと簡単な言葉を選ぶようにしている。また、身振り手振りで伝える補助をしている。相手の声が聞き取れなかったら正直にもう一度話してくれるようお願いしている。そして、マスクをしているからと言って距離が近づきすぎないように気を付けている。
- ・マスクによって表情が隠されてしまい、意思疎通を図ることが難しくなっていると思う。コロナ禍になって会話における表情の重要性を改めて感じた。口角が上がっているのか、下がっているのか、頬の動きなどを見て相手の感情や理解度を無意識のうちに確認していたのだということに気づかされた。話し手の時も同様に伝わりにくくなっている。声色や身振り手振りを多用するなど努力はしているつもりだが限界を感じている。
- ・顔の半分が見えないので、自分の表情が伝わりにくいし、相手の表情もわかりにくい。声がかもってしまうため、前より大きな声で話すようになったと感じる。
- ・表情がない分イントネーション、声量に気を付けて自分の感情が出来るだけ多く相手に伝わるよう意識して生活してきました。逆に相手の感情も少ない情報で知ろうとしてしまうためマスクをしているとお互い慎重に会話しすぎて会話が弾みにくく不便であると考えています。
- ・自分の表情も相手の表情も分かりづらいので、なるべく目元がきつい印象にならないように気をつけている。また、声を出して笑うようにすることによって、楽しいという感情を周りに共有することを心がけている。聞き間違いや聞き取りにくいことも多いので、なるべく大きな声ではっきりとした発音で話すことにも注意している。
- ・マスクで遮られているので声が聞き取りにくく、話の内容がわからなかったり、聞き逃してしまうことが増えている気がする
- ・マスクを着けて話していると口元が見えないので、何を言っているかわからないときがあると思うので、はっきり話さなければいけないと思います。
- ・表情を読み取れないので普段より話しづらい。
- ・マスクをつけているとその分声が通りにくくなるので、マスクを着けていないときの会話よりも声を大きくして、ハキハキと話す必要があると思います。そうすると、マスクを着けていないときに比べてマスクをつけながら話すことは気を使うことが増えてしまいましたが、相手の

ためにもするべきだと思います。

- ・お互いがマスクを着けている状態の会話はマスクをしないで会話するときと比べて、相手の声が聞こえにくくなる。自分的には相手が聞こえやすいように話しているつもりが相手に何度も聞き返されたりすると申し訳なく思う。

- ・相手の表情が分かりにくいいため、マスクを着けていなかったときに比べて少し気疲れする。
- ・マスクをつけることで会話が聞こえにくくなったり、お互いの表情が確認しにくくなることがあるが、だからこそ会話において様々なことに細かく気を配る姿勢が培われると考えている。相手にどうすれば伝わりやすいか言葉や態度にも自然と工夫するようになり、そのために相手をよくみるようになるため、マスク着用は私たちにとってより深い会話を成立させる機会になっていると感じる。学級づくりの活動においてもマスクでの会話は効果的だと考えている。

- ・声がこもっているため、聞き間違いや聞こえないことが多くなる。

- ・口元で表情を判断することが多いのにマスクを着用すると口元が見えなくなってしまう、相手の目元だけで判断することになるため、一層相手の機嫌や感情を察する能力が必要になると思う。

- ・私がマスク生活で一番大変だと感じるのは、相手の表情を気にしすぎてしまうことです。マスクで顔の大部分が隠れているので、自分が言ったことに対して相手がどう思っているのかが見た目では判断しづらいです。お互いの意思が伝わりにくいからこそ、できるだけ言語化して相手に伝えるということがこれからどんどん大事になると思いました。しかし、相手の表情を見ることに関しては、きちんと目を見て話したり、聞いたりできるようになったので良かったです。

- ・マスクは顔の大部分を覆ってしまうため、会話をするうえで少々困難に感じることもある。

- ・コロナ禍で常にマスクをすることを余儀なくされ、会話においていかに表情が大きな役割を果たすのか実感した。同じ言葉でも表情によって相手の捉え方は大きく変わってくる。そのため表情が見えなくなってしまうと、自分の伝えたい通りに相手に伝えることが一気に難しくなる。言葉だけで自分の気持ちを表現する力がとても重要になってくると感じた。

- ・声が伝わりにくかったりすることがあるのでより声を大きくする必要があったり、相手の表情がわからないこともあると思う。

- ・表情が見えない分、自分の話がちゃんと聞かれているか心配になる。自分自身が話を聞かれているか心配になることがあるので、人の話を聞く時は頷くことや相槌をうつことを意識しようとしている。

- ・表情がマスクを着けていないときと比べてわからないので、相手に悪い印象にならないように気を付けています。

- ・マスクを着けている状態で、ソーシャルディスタンスも保つということになると、声が聞こえづらくなると思います。また、口角の上がり下がりが見えないので、目や声のトーンから相手の気持ちも読み取る必要があると思います。

- ・声が聞こえづらくなっていて、会話中に困っているのので、声をハキハキと少し音量をあげています。

- ・たまに聞こえない部分や理解しにくい部分があると思う。

- ・私のようなコミュニケーションを得意とはしない人にとっては、マスクを着けている状態の方が着けていない状態に比べ、コミュニケーションを取りやすいと思います。

- ・相手の表情がわからなくて不安。
- ・相手の表情がお互い見ることが出来ないため話すタイミング、表情が見えないため感情がわからないため身振り手振り、声のトーンに一層気を付けないとオンラインでのラインなどのコミュニケーションツールと変わらなくなってしまうので普段より大きめを意識して会話をしたほうが良いと思う。
- ・お互いの表情がわかる状態ではないので、寂しい感じがする。しかし、**マスクで顔の半分が隠れるので、普段よりも目を合わせてしゃべりやすい。**

表情が読み取りにくい

・表情が分かりづらいため、声のトーンで相手の感情を感じ取る方が多くなり、気を使う部分がマスクをしていなかった頃より増えたと思う。声が聞き取りにくく、何度も聞き返されたことがあるが、どのくらいまで大きな声を出して良いのかが分からないと感じる。また、何度も聞き返されると話し手は「何か変なこと言ったかな」と不安になるし、聞き手は「何度も聞き返して申し訳ないな」と言う気持ちになり、**会話を楽しめない。**

・マスクを着けていると、口元を読み取られにくいという安心感から、相手が話をしている際に、口をもごもごと動かしてしまうことが増えた。顔全体の表情が読み取れないため、相手の目を見て話したり、聞いたりするようになったと思う。私は、目と眉を大きく動かして表情を伝えて、相手に不安感を抱かせないようにこころがけている。

・相手の表情がわからないうえにこちらの表情も伝わらないので、まどろっこしいことが多く、早くマスクなしの会話ができるようになればいいなと思っています。

・相手の表情が見えないので、コミュニケーションがとりにくいと感じることがある。表情が見えない分、言葉遣いで相手が不快になっていないかどうかや、声が聞き取りづらくないかなど、**マスクを着けていない場合よりも考えながら話すことになるので、コミュニケーションが億劫になり、人とのかわりが最低限のものになると感じた。**

・私はあまり良いとは思わない。マスクをしているせいで、声も聞こえづらいし、表情も見えづらいので、よくないと思う。会話は口で話すだけではなくて、相手の表情や態度も見ながらするものだと思う。そこで、相手の感情を読み取ったり、自分の話にどれくらい興味を持ってくれているかが分かる。

・たまに聞き取れない部分や理解しにくい部分があると思う。

・相手の感情などを聞き取りづらくなる。声が小さいと、聞こえづらかったり、会話にならないことがあると思う。

・あまり表情がお互い見えないので、マスクがない時より感情がわかりづらく、コミュニケーションに問題を感じるなと思いました。

・私は昔から初対面の人と話すのが苦手です。特に自己紹介があまり好きではなかったのですが、**マスク生活になりそれに拍車がかかっているように感じます。**私の名前は普通の時でも一発で聞き取ってもらえることが少ないので、マスクをしていると余計聞き取りづらく、何度も言わなければいけなくなるのがつらいです。表情もわかりづらいので自分の話が本当に伝わっているのか不安になることが多々あります。

・顔からの情報が目元からしかないので、読み取りづらい。

・マスクを着けて会話していると、「怒ってるの？」や、「なんか嫌なことあった？」と聞かれることが増え、相手から見て自分は不機嫌に見えていることに気がついた。マスクをし表情

が見えないので不機嫌に見えてしまう。大学に入ってすぐにも何度か言われることがあったので、相手に誤解を与えないように会話をする際は、相手の目をよく見て、相槌を多くし、良い印象を持たれるように心がけている。

- ・目だけでは表情が分かりにくく感じる。
- ・自分は声が低いので相手にちゃんと伝わっているかどうか心配になる。
- ・表情が伝わりにくい。声が通りにくい。
- ・表情が読み取りにくいいため、自分の気持ちを言葉でしっかり伝えるようにしています。
- ・このコロナ禍において、お互い飛沫をとばしあうことは良くないことだと理解しているため、しょうがないと感じる。だが、相手の表情がわかりにくかったり、相手の声が聞き取りにくい時があるので厳しいところもある。
- ・マスクがあって声が聞きづらい状況が多いので自分が話すときは確実に伝わるようにはっきり話すことを心がけています。私は相手の口元よりも目を見ながら話すことが多かったので多少の変化はありつつも、マスクをしていないときとあまり変わらないとおもっています。目元以外から情報を得られないため、表情から会話をコントロールする事が難しい。
- ・表情がわかりづらいので、コミュニケーションがやや不自由になると思います。
- ・マスクを着けていると相手も自分も反応がわかりづらい。しかし、コロナが長引いていることにより慣れてきたところもあると思う。マスクを着けたままよりマスクがないほうが会話 enjoyable するような気がする。

コミュニケーションに難を感じていることがわかる。特に、表情、口元が見えないこと、自他の声が届かないこと等が大きな要因である。

一方で、相手意識が強くなること、伝達としての言葉を磨く上で効果があることについて記述していることも着目したい。マスク越しでのコミュニケーションのあり方をクラス等で話し合わせたり、伝わりやすいことばについて考えさせたりすることを実践することも構想の必要がある。

3 リモートでのコミュニケーション意識

「パソコン（タブレット端末を含む）やスマートフォンなどの機器を使い、ビデオ通話（テレビ電話）をしたり、ウェブ会議（テレビ会議）、オンライン会議（リモート会議）に参加したりしたことはありますか。それとも、ありませんか。」という質問に対する回答は以下の通りである。

「ある」が 54 人（96.4%）、「ない」が 2 人（3.6%）であった。大部分の学生がオンラインでのコミュニケーションの経験があることがわかる。

3-1 リモートでのコミュニケーション意識の変化

それでは、具体的にどのようなコミュニケーション意識があるのだろうか。「ビデオ通話（テレビ電話）をしたり、ウェブ会議（テレビ会議）、オンライン会議（リモート会議）で、あなたが気をつけていることは何ですか。この中からいくつでも選んで下さい。」という質問に対する回答は以下の通りである。

はっきりとした発音で話すようにしている	35人 (62.5%)
声の大きさに気を付けるようにしている	24人 (42.9%)
話す速さに気を付けるようにしている	30人 (53.6%)
表情で伝えにくい分を言葉でおぎなうようにしている	7人 (12.5%)
ほかの人の表情や反応に気を付けるようにしている	25人 (44.6%)
身ぶり手ぶりを多く使うようにしている	14人 (25.0%)
意味が通じやすいと思う言葉を使うようにしている	16人 (28.6%)
きちんと伝わっているか相手に確認するようにしている	28人 (50.0%)
映り具合や音量の設定などに気を付けるようにしている	39人 (69.6%)

「映り具合や音量の設定などに気を付けるようにしている」「はっきりとした発音で話すようにしている」が6割を超える。情報機器設定、声の明瞭さを意識する数値が高い。

「話す速さに気を付けるようにしている」「きちんと伝わっているか相手に確認するようにしている」を意識する数値は約半数である。これらの数値がマスク越しのコミュニケーションより数値が高いことは興味深い。

「ほかの人の表情や反応に気を付けるようにしている」の数値がマスク越しより低い数値となっている。リモートでのコミュニケーションの際、多くがビデオオフとなっていたり、リモートにおいてもマスク着用するケースがあるからではないかと推測する。

「表情で伝えにくい分を言葉でおぎなうようにしている」「意味が通じやすいと思う言葉を使うようにしている」の言葉によってコミュニケーションを円滑にしようという意識の数値が低い。これはリモートでのコミュニケーションが通常のコミュニケーションと意識の差が小さいからだろうか。ビデオオフ、リモートにおけるマスク着用についてとの関連からもその内実を調査する必要がある。

ここに、リモートでのコミュニケーションの課題が確認できる。

3-3 リモートでのコミュニケーションの今後

今後のリモートでのコミュニケーションについて、その意識をどうなっているだろうか。

「今後、ビデオ通話（テレビ電話）をしたり、ウェブ会議（テレビ会議）、オンライン会議（リモート会議）に参加したりしたいと思いますか。それとも思いませんか。」という質問に対する回答は以下の通りである。

非常にそう思う	5人 (8.9%)
ある程度そう思う	33人 (58.9%)
あまりそう思わない	16人 (28.6%)
まったくそう思わない	2人 (3.8%)

3人に2人が非常に「そう思う」「ある程度そう思う」という肯定的回答があり、3人に1人が「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」という否定的回答となっている。

肯定的回答は多いが、「ある程度そう思う」がその大部分を占めていることに着目したい。完全にリモートでのコミュニケーションを求めているわけではなく、あくまでもコミュニケーションの一つとして、リモートでのコミュニケーションの必要性を感じていると推測する。

3-4 リモートでのコミュニケーションに思うこと

「ビデオ通話（テレビ電話）をしたり、ウェブ会議（テレビ会議）、オンライン会議（リモート会議）に参加したりすることについて、あなたの思うことを述べなさい。」と自由に記述してもらった。（ゴシック体については佐野が施した）これらの記述についてはテキストマイニングを行い、結果については【資料3】に示した。

- ・離れているところにいるとしても会議ができるのはとても便利だと思うが、対面していない分緊張感が生まれなかったりするとも思われる。
- ・対面の必要性がない場合は、オンラインでの授業に積極的に移行していくべきだと思う
- ・どこでも受けることができるというメリットがあるので、これからも参加したい。
- ・コロナが流行ってから、マスクを外して人の目を気にせずいろいろな人と話すことができる機会が減っているのでもともと良いことだと思う。
- ・一人暮らしの学生のことや心配な親が、子供の表情をみることができるので、非常に便利なものだと思う。
- ・現代は情報化社会が進んでるため、これからどんどん機械を使う機会が増えてくると思う。その中で、ビデオ通話や、ウェブ会議、オンライン会議に参加することで、リモートに慣れるとともに、機械の操作にも慣れることができ、自分の将来につながられると思う。
- ・直接会ったときはマスクをつけていることが多いため、画面越しではあるもののマスクを外した顔面を見せることに抵抗がある。
- ・感染症予防につながるだけでなく、普段離れていてなかなか直接会えない人同士がリアルタイムで話すことができることは非常に画期的であると思う。
- ・ビデオ通話やウェブ会議、オンライン会議はどこでも参加できるというメリットがありますが、画面越しでの会話となるため相手の表情や考えていることが読み取りにくかったり、話すタイミングをつかみにくかったりやりにくい点がかかり多い印象です。そのため、できることなら私は対面の方が嬉しいです。
- ・以前、釧路校のオンライン学校説明会に参加した際に質問をしにくかったことがある。そのため、リモートになると自ら発言することがためらわれると思う。ただ、相手の顔を正面から見ることができたり、声が聞こえなければ音量を上げるなどの調整を自分でできたりなどというメリットがあることも理解している。
- ・リモート会議などの遠隔の会話は会話ではあるものの面と向かって会話する時とは異なったものであると考える。直接の会話と大きく異なる部分は時間差があるということだ。発言して、聞き手が聞いて理解するまでの時間が直接の会話よりも長くなってしまふ。直接の会話にはリ

リズムがあるが、遠隔の会話にはこのリズムが生まれにくい。議論の場ではなく発言がかぶることを防ぐため、発言する順番を決めるなどまるで発表会ようになってしまうと思う。したがって私はできるだけ遠隔の会話ではなく、面と向かって会話する方が良い議論がしやすいのではないかと考える。

- ・時差があったり、声が聞こえにくかったりするため、使いにくいと感じた。時差があると自分が伝えたことが相手に伝わっているのか瞬時にわからない。コロナ禍が続いていることで、オンラインでの会議のシステムが良くなっているとは感じる。時差がもっと少なくなると、離れた人とも話せる便利な機能であると思う。

- ・家で参加できるという点はとでも便利でいいと思うが、逆になかなか集中するのが難しいためすべての教科がリモートになるのではなく、入れ違いのようなイメージで授業が組まれていないとあまり自分の成長につながらないのではないかと、と思います。

- ・このコロナ禍において、これらの需要が拡大した。これらを活用することによって、どこでもいつでも顔を見て話すことが出来る。これ以上コスパのいいものは無い。教育界でも、大いにこれらの技術を活用して、誰もが平等な教育を受けられるように、ネット環境を整えるべきだと考える。

- ・遠くても顔が見れたり面と向かって話せるのはいいことだが、リアルで距離の近い対話も重要だと思うから、適宜使用していくべきだと思う

- ・遠くにいる人とも手軽に会議ができるという点ではいいと思います。

- ・対面での話し方とは異なるので、より相手に伝えやすい話し方を学ぶことのできる

私が実際にゼミをzoomで参加したときに、自分ではしっかり伝えているつもりでも途中で止まっていたり、音量調節がうまくいってなかったり先輩に伝わりきっていないということがありました。なので、自分のペースで話すのではなく言葉と言葉をきりながら、相手の相槌に合わせて話すことが大事だと思います。

- ・顔を出して参加するのに抵抗がある。

- ・状況に応じて対応できることは素晴らしいことだと思う。これから情報化社会の中で生きてゆく私たちにとってはむしろ良い経験だと思う。

- ・最近インターネットを通じたグローバルな取り組みが増えてきており、広くつながる環境が形成されつつある。その環境で主体的に活躍できるようになるためにも、インターネットを介しても対人する時と変わらないコミュニケーション能力を発揮できる必要がある。インターネット上でのコミュニケーション能力を培うには、学校教育の中で実践として行っていく必要があると考える。

- ・オンラインだと、トラブルが起こりやすい。

- ・一か所に集まる必要がなく便利な反面、技術トラブルが発生したりするため扱いに少し注意が必要だと思う。

- ・これらの大きなメリットは全員で集まらなくてもそれぞれの場所から参加できることだと思います。全国どこにいても簡単にできるので人とのつながりを増やすにはちょうどいい方法だと思います。しかし、オンラインのデメリットは個人で発言しにくいいため、受け身になりがちだということです。私もオンライン会議に参加した際に周りの話を聞くだけで自分が考えたことを心にため込んでしまった経験があるので対面がいいなと感じました。場合によってはオンラインの方が便利なこともあるので、使い分けも大事だと思います。

・現代では、インターネット環境も以前よりはるかに良くなってきているが、まだ完璧とは言えない。時間差があったり、画面が止まってしまったりすることもまれにある。そのため、対面形式よりもスムーズに進まないことがあるのは当然のことである。しかし、1か所に集まる必要がなく、自宅などから参加できる点についてはとても便利であると思う。そして画面越しであれば、**マスクをする必要がないため表情を見て会話することができる**。このコロナ禍においてはある程度普及されるべき会話手段だと思う。

・便利という点では優秀だと思うが、実際に会って話し合うことで生まれるものもあると思うので必ずしも良いものとは言えないと思う。

・ネットの回線が悪いと途切れたりするので面倒だなと思うことはあるが、できるだけ外に出たくないのも意外とリモートは使えるなと思う。

・対面とは違い、ずれとかがあるので言葉をかぶらないように注意します。しかし、対面とは違い**マスクをしなくてもいいので表情などははっきりわかるようになるのは利点**だと思います。

・声が聞き取りづらかったり、インターネット環境によっては映像や音声が乱れることが時々あるので、オンラインでの取り組みはあまり得意ではありません。

・**画面上に自分の顔を映すことに抵抗**を感じてしまう。自分の顔をあまり見たくないのも好ましくはない。ビデオをonにしないのであれば、家からでも参加できるので有効に感じる。

回線トラブルなどがあった場合、再度説明してもらおうなど、改善の余地があると思う

・先述したような人にとっては、**画面を隔てることによって緊迫感をさほど感じなくなり話しやすくなる**と思います。

・そのようなものに慣れてないのでスムーズに参加できるようになりたい。

・**ラインなど身近なツールでのビデオ通話には慣れているが、他のツールは使い慣れていない**ものが多く、うまく参加できるかなどの不安がある。コミュニケーションの面でも電波の問題をなしにしても自分の伝えたいことが思っている通りに伝わるかなどの不安がある。

・通信が途切れてしまって相手の声がいまいち聞き取れなかったりするのでその点では若干困るが、**対面よりも自分の意見が言いやすい**という利点があるのでいいなと思う。

とにかくわかりやすく話す

・ビデオ電話は遠くにいる親戚などとも繋がることができ、相手の状況・状態が分かりやすい等の利点があり、参加したいと思う。しかし、会議になると音声の途切れや実際にその時間に間に合わない等の障害が発生した場合が大変になる。**重要事項は全員の顔や反応を集まって確認すべき**だと思う。

・私は、友人とのテレビ電話しかしたことがないが、声だけでなく顔も見ることができると安心感がある。声だけの通話だと、電話の裏で相手が違う作業を行っている可能性も考えられるため、顔を見せ合って話をしたほうが話に集中することができると思う。

・わざわざ移動する手間やお金が減るので、コロナ禍をきっかけにもっと広まっていけばいいのかなと思います。大学生なら、外部の勉強会や学会など、有用性を実感することも多いのではないかと思います。

・**電波や機材の確認がある分、対面での会議などよりは多少煩わしく感じる**。トラブルがあると進行が止まったり、会議自体がなくなったりもするのであまり参加しようとは思わない。テレビ番組などでみたことがあるのだが、見えていない部分で何かほかのことをして遊んでいた

り、参加しているように思わせて実はしていないといったことが起こっているのも、呼びかけたり、話を聞いていたかどうかの質問をしてみたり、何かしらの工夫が必要だと感じた。

・それらに参加することに対して私はいいいことだと思う。遠隔だから**コロナウイルスのことを気にしないで話せるし、会話をするうえで大事な表情を見るという行為ができる**。さらに遠くにいる友達と顔を見ながら話すことができるので、友達と会えなくて寂しい思いをすることが減ると思う。ただ欠点をあげるとすれば、インターネット環境が整っている場所でないとい何もできないということだ。そこを直せば、さらに便利な機能になると思う。

・回線トラブルがあった場合に、再度説明を求める必要があることなど、少し改善の余地があると思う。

・**マスクを着けなくてすむため、表情などは読み取りやすくなる**と思いますが、場所が違ったり、距離があったりと難しいところ生まれると思います。

・ひとりぼっちで操作を行うので、しっかり繋がっているか、自分はしっかりと操作できているか不安になります。

・友達とビデオ通話はよくするのですが、公的な会議や授業などはオンラインでやったことがないので少し不安です。コロナ禍においてオンラインでの会議や授業が普及していますが、私は実際に人と会って話をしたほうが自分の気持ちも相手の気持ちも伝わりやすいのではないかと思います。

・インターネット回線の速度によって見やすさが変わってくるので、ある程度の配慮がいると思う。また、**元々早口で話す人だと、気を付けていてもだんだんと早口になっていくので、文面もつけたほうが良い**と思う。

・感染リスクを減らし、尚且つ遠隔にいる人と会話ができる点については非常に良いと思う。しかし、リモートなどでは、電波の環境にも左右され話が進まなかったり、**画面越しではなおさら相手の印象や状況がわからず誤解を招いてしまう可能性がある**。友人や家族など気心知れた人なら良いと思うが先生や初対面の人とのビデオ通話は細心の注意を払って行う必要があると思う。

・きちんと接続できるか不安。

・ネット環境だったり、パソコンの更新や状態などで問題点が多少あるので柔軟な対応をしていくべきだと思う。

・時差があるため、とても気を遣う。

・遠くにいる人とも繋がれたり、密にならずに多くの人と関わることができたりする良さがあると思うのでこれからさらに重要になってくると思います。

・**マスクをつけて会って話すよりも相手の表情をしっかりと見ることができたり、ビデオをオンにしていれば実際に会って話をしているのと同じ感覚なのでよい**と思う。ただ、ネット環境により、遅延があるとストレスを感じる。

・安全面を考慮すれば非常に良い作業の仕方だとは思いますが、個人的には対面のほうがより相手との距離が近く感じられていいのではないかと思います。

・状況が状況であるため仕方ない部分ではあるが、**細かな発言を拾ったり表情の変化を敏感に読み取ったりする事が難しく、反応に時差があるため、対面での会議よりは内容が劣ると感じる**。故にあまり参加したいと感じない。

・いろいろな人と話せるので良いと思う。

・離れた人とも簡単に顔を見て会話をすることができるので便利だと思う。しかしまだまだ時間のずれや反応の遅さがあるのでそこを改善していくべき。

ネット回線、発言の際のタイムラグといった技術的側面の問題が指摘されている。これは今後の技術の発展により解消できるものであろう。

加えて、日常からもマスク越しのコミュニケーションが多くなったため、顔を出すことに抵抗感のある学習者もいることも配慮する必要がある。

また、リモートでのコミュニケーションの際に、ビデオオンの問題、字幕等、学生のリモート講義の経験などの課題も提示されている。

4 コロナ禍特有の言葉についての使われ方の印象

コロナ禍特有の言葉である「ソーシャルディスタンス」「クラスター」などの言葉の使われ方の印象について質問した。質問した言葉は次の八つである。

- ① コロナ禍 ② ソーシャルディスタンス ③ 3密 ④ 濃厚接触
⑤ クラスター ⑥ 不要不急 ⑦ ステイホーム ⑧ ウィズコロナ

選択肢は次の三つである。

- A この言葉をそのまま使うのがいい
B この言葉を使うなら、説明をつけたほうがいい
C この言葉は使わない、ほかの言い方をしたほうがいい

それぞれの言葉について「自分の考えに最も近いもの」を選んでもらった。

回答は以下の通りである。

① コロナ禍	A 49人 (87.5%)	B 4人 (7.1%)	C 3人 (5.3%)
② ソーシャルディスタンス	A 43人 (76.7%)	B 10人 (17.8%)	C 3人 (5.3%)
③ 三密	A 34人 (60.7%)	B 21人 (37.5%)	C 1人 (1.7%)
④ 濃厚接触	A 37人 (66.0%)	B 16人 (28.5%)	C 3人 (5.3%)
⑤ クラスター	A 34人 (60.7%)	B 17人 (30.3%)	C 5人 (8.9%)
⑥ 不要不急	A 27人 (48.2%)	B 23人 (41.0%)	C 6人 (10.7%)
⑦ ステイホーム	A 41人 (73.2%)	B 9人 (16.0%)	C 6人 (10.7%)
⑧ ウィズコロナ	A 20人 (35.7%)	B 27人 (48.2%)	C 9人 (16.0%)

八語中六語は肯定的な回答が6割を超え、数値が高い。今後も使用されることであろう。

一方で、「不要不急」「ウィズコロナ」は肯定的回答の数値が低い。今後、この二語の使い方には注意をする必要があるだろう。

5 おわりに

以上、2022年（令和4）4月時点での「教員養成系大学初年次学生のコミュニケーションに関する意識」についての、調査結果を提示し、若干の考察を加えてきた。

マスク越しのコミュニケーションについて、リモートでのコミュニケーションについて、その課題を明らかにすることができた。これらの課題は教員養成系大学初年次学生のものではなく、広く多くの場面にも援用できるものであろう。本稿の成果である。

国語科の指導事項として、マスク越しのコミュニケーションについて、リモートでのコミュニケーションについても取り上げる必要があると考える。今後の社会生活、日常生活の中でもマスク越し、リモートでのコミュニケーションをとる機会があることは自明のことである。学習者自身にマスク越し、リモートでのコミュニケーションのあり方を考えさせたいものである。これらの課題を自覚化させる契機となると確信する。

一方で、「令和2年度「国語に関する世論調査」の結果について」（文化庁国語課 2021年（令和3）調査）と比較しての考察ができなかった。加えて、2022年（令和4）4月とこの論考を執筆している8月とはコロナ禍の状況とも異なり、当然その意識も違うものとなる。これらは今後の課題となるが、まずは本稿の成果から、状況の文脈を把握し、どのようにコミュニケーションをとるべきかを考える際の資料となったと確信する次第である。

※ 本稿は、科研費（19K02735、21K02428）の成果の一部である。

（さのひろみ／北海道教育大学釧路校）

【資料1】Googleフォーム調査票

コロナ禍の言語生活

*必須

1. メールアドレス*

2. 学生番号*

3. 氏名*

4. 自分も相手もマスクを着けている状態で会話をすると、マスクを着けていないときと比べて話し方や態度などが変わることがあると思いますか。それとも、ないと思いますか。

1つだけマークしてください。

- 変わることがあると思う
 変わることはないと思う

5. (「変わることがあると思う」と答えた人に) どのような点で変わることがあると思いますか。この中からいくつでも選んで下さい。

当てはまるものをすべて選択してください。

- はっきりとした発音で話すようになる
 声の大きさに気を付けるようになる
 話す速さに気を付けるようになる
 表情で伝えにくい分を言葉でおぎなうようになる
 相手の表情や反応に気を付けるようになる
 身ぶり手ぶりを多く使うようになる
 意味が通じやすいと思う言葉を使うようになる
 きちんと伝わっているか相手に確認するようになる
 相手の話を最後まで聞くようになる
 自分が話すタイミングに気を付けるようになる
 相手との距離に気を付けるようになる

6. 自分も相手もマスクを着けている状態での会話について、あなたの思うことを述べなさい。

7. パソコン(タブレット端末を含む)やスマートフォンなどの機器を使い、ビデオ通話(テレビ電話)をしたり、ウェブ会議(テレビ会議)、オンライン会議(リモート会議)に参加したりしたことはありますか。それとも、ありませんか。

1つだけマークしてください。

- ある
 ない

8. (前問で「ある」と答えた人に) ビデオ通話(テレビ電話)をしたり、ウェブ会議(テレビ会議)、オンライン会議(リモート会議)で、あなたが気をつけていることは何ですか。この中からいくつでも選んで下さい。

当てはまるものをすべて選択してください。

- はっきりとした発音で話すようにしている
 声の大きさに気を付けるようにしている
 話す速さに気を付けるようにしている
 表情で伝えにくい分を言葉でおぎなうようにしている
 ほかの人の表情や反応に気を付けるようにしている
 身ぶり手ぶりを多く使うようにしている
 意味が通じやすいと思う言葉を使うようにしている
 きちんと伝わっているか相手に確認するようになっている
 映り具合や音量の設定などに気を付けるようにしている

9. 今後、ビデオ通話(テレビ電話)をしたり、ウェブ会議(テレビ会議)、オンライン会議(リモート会議)に参加したりしたいと思いますか。それとも、思いませんか。

1つだけマークしてください。

- 非常にそう思う
 ある程度そう思う
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

10. ビデオ通話(テレビ電話)をしたり、ウェブ会議(テレビ会議)、オンライン会議(リモート会議)に参加したりすることについて、あなたの思うことを述べなさい。

11. ここにあげた①~⑩の言葉の使われ方について、どのように思いますか。自分の考えに最も近いものをそれぞれ一つずつ選んで下さい。

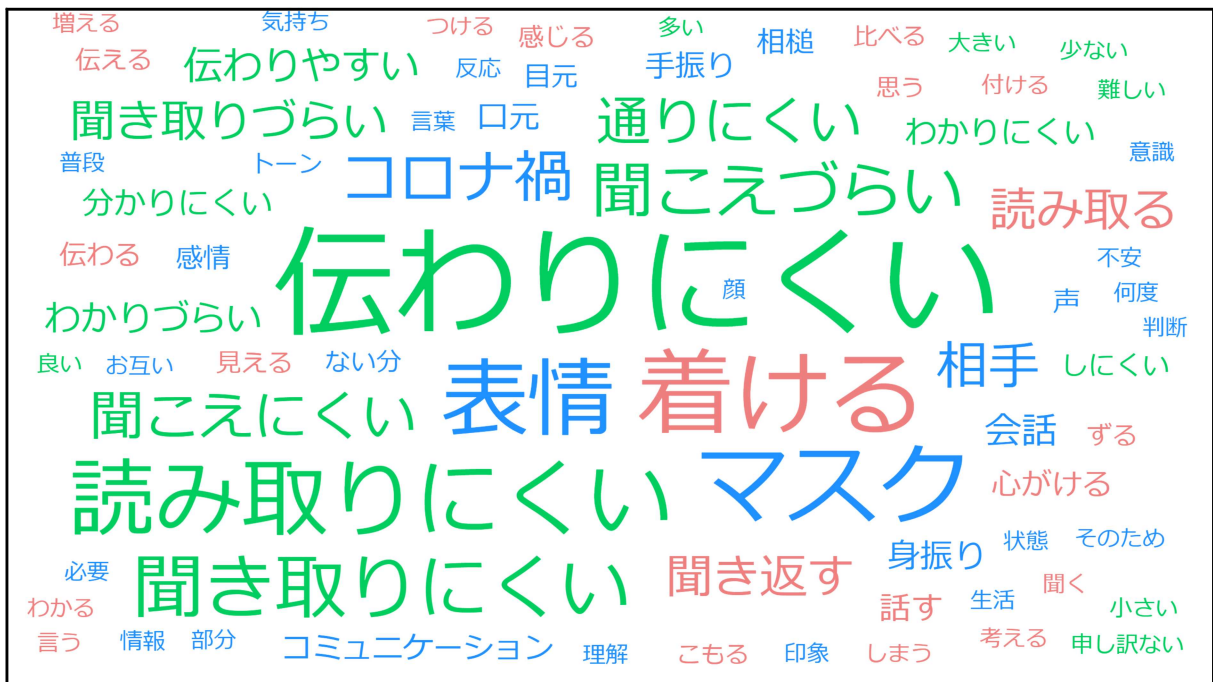
1行につき1つだけマークしてください。

	Aこの言葉そのまま使うのがいい	Bこの言葉を使わずら、説明つけたほうがいい	Cこの言葉は使わない、ほかの言い方をした方がいい
①コロナ禍	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
②ソーシャルディスタンス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
③三密	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
④濃厚接触	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑤クラスター	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑥不要不急	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑦ステイホーム	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑧ウィズコロナ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

【資料2】マスク越しによるコミュニケーション/テキストマイニング



【資料3】リモートによるコミュニケーション/テキストマイニング

